

2025年3月期
(2024年度)

決算説明会

RICOH
imagine. change.

2025年5月2日
リコーリース株式会社



1. 2025年3月期 連結業績報告
2. 事業分野別の状況
3. 2026年3月期 連結業績予想
4. 2023年度～2025年度 中期経営計画の進捗
5. 参考資料

1. 2025年3月期 連結業績報告



1. 過去最高益更新

営業資産の拡大や資産利回り向上等により、各利益は過去最高益を更新

前年の特別損失（投資有価証券評価損）計上の反動により、当期純利益は大幅増益

2. 営業資産 12,217億円（前期末比+1,067億円）

リース&ファイナンス事業、インベストメント事業ともに営業資産を積み上げ、大幅増加

3. 2026年3月期は増収減益を予想

資金原価・販管費の増加により、各利益は減益を予想

中期経営計画の配当性向40%以上に対し、1株当たりの年間配当金は185円、配当性向43.2%を予想

※当資料において、営業資産はリース債権流動化を控除しない残高を記載

※当資料において、「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」と表記

※当資料において、差引利益は売上高より資金原価を除く売上原価を差し引いた額



連結業績

- 増収及び利益率の上昇により、売上総利益は増益
- 販管費が増加したものの、営業利益以下の各利益も増益、通期予想を達成
- 1株当たり配当金（年間）を従来予想の175円から180円に引き上げ

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期		2025/3期 通期予想	達成率
		4Q累計実績	伸率		
売上高	3,083	3,121	1.2%	3,150	99.1%
売上総利益	455	485	6.5%	475	102.2%
販売費及び一般管理費	245	268	9.2%	264	101.6%
営業利益	210	217	3.4%	211	103.0%
経常利益	215	220	2.3%	212	103.9%
当期純利益	112	156	38.8%	147	106.5%

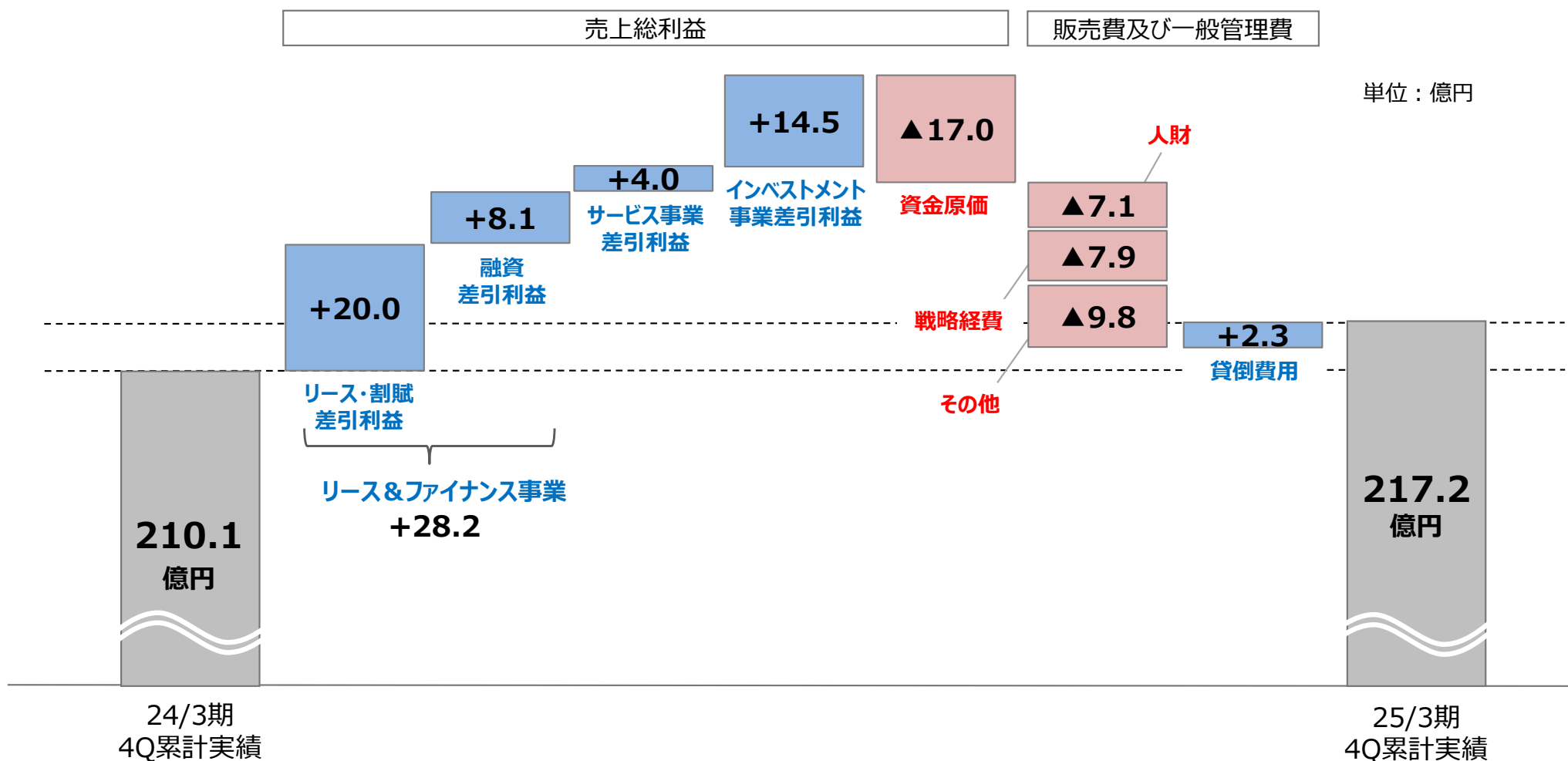
前年差

1株当たり配当金（円）	150.00	180.00	30.00	175.00	—
1株当たり純利益（円）	365.89	507.99	142.10	476.89	—
配当性向	41.0%	35.4%	△5.6%	36.7%	—
ROA（総資産当期純利益率）	0.91%	1.19%	0.29%	1.14%	—
ROE（自己資本利益率）	5.2%	6.9%	1.7%	6.5%	—



営業利益の前年比増減要因

- 営業資産の積み上げや資産利回りの向上により、差引利益は全セグメントにおいて増益
- 市場金利の上昇や事業基盤強化に向けた投資等により、販管費が増加





連結貸借対照表

- ・ 契約実行高の伸長により各営業資産を積み上げ、資産及び負債は増加
- ・ 大口債権の貸倒処理により、貸倒引当金を取り崩し

単位：億円

	2024/3期	2025/3期			2024/3期	2025/3期	
	期末	期末	前期末増減		期末	期末	前期末増減
現金及び預金	49	13	△36	短期有利子負債 ※2	1,892	2,090	198
リース債権及びリース投資資産	5,061	5,476	415	長期有利子負債	7,013	8,010	997
割賦債権	1,751	1,835	83	債権流動化債務	210	95	△114
営業貸付金	2,601	2,765	163	その他負債	1,138	1,225	87
賃貸資産	894	1,388	493	負債 合計	10,253	11,421	1,168
貸倒引当金 ※1	△126	△ 68	58	純資産 合計	2,219	2,340	121
その他資産	2,240	2,351	111				
資産 合計	12,472	13,762	1,289	負債純資産 合計	12,472	13,762	1,289

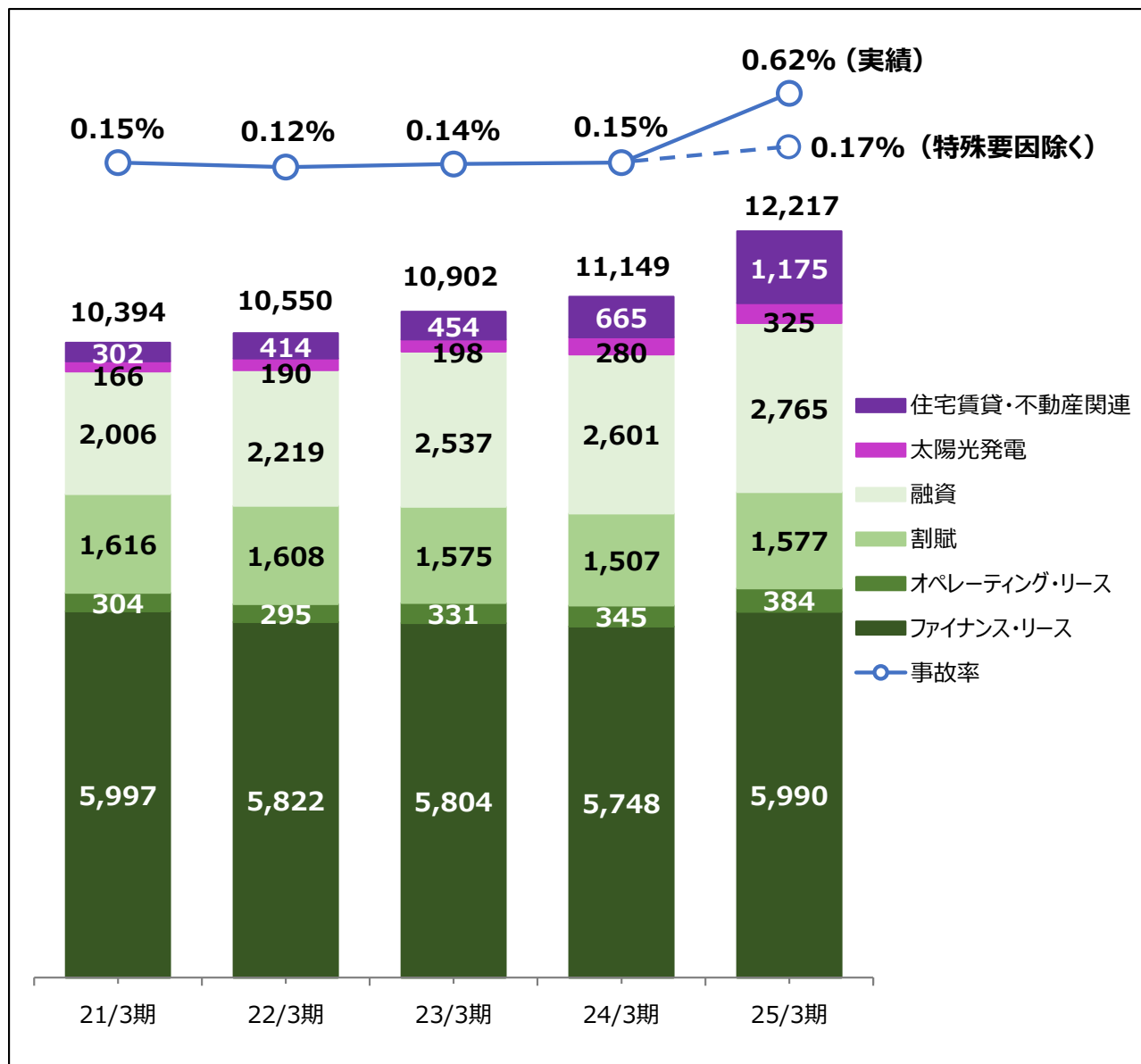
※1 貸倒引当金は、流動資産及び固定資産の合計を記載

※2 1年以内返済予定の長期債務（社債、長期借入金）は、短期有利子負債に含む



営業資産と事故率

単位：億円



- 全セグメントにおいて営業資産が堅調に増加
- ファイナンス・リースにおいても、契約実行高の増加により資産が増加に反転
- 過年度に引当済の大口債権の貸倒処理（特殊要因）により事故率が大幅に上昇したが、当期の損益への影響は無し

※25/3期4Qリース債権流動化金額：513億円

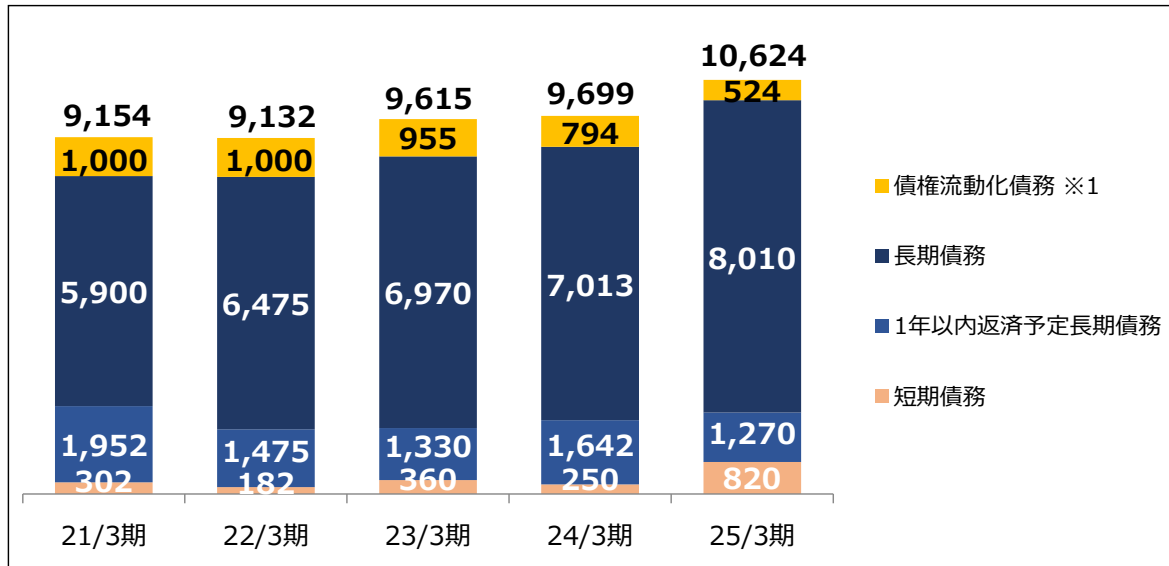
※事故率 = 事故損失額 ÷ 営業資産平均残高



調達総額と資金原価

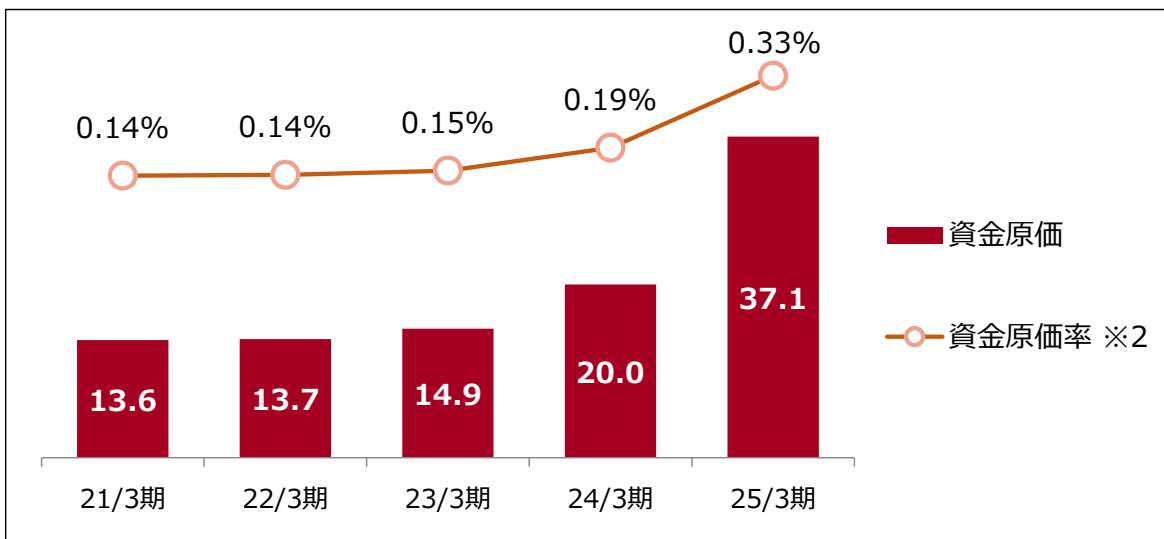
調達総額

単位：億円



資金原価・資金原価率

単位：億円



- 営業資産の拡大により有利子負債が増加
- 金利変動リスク・流動性リスクを考慮し資金調達を実施
- 市場金利が想定以上に上昇し、資金原価は期初予想を11億円超過

※1 債権流動化債務は、オフバランス調達を含む残高を表示

※2 資金原価率 = 資金原価 ÷ 営業資産平均残高

2. 事業分野別の状況



事業分野別 業績サマリー

- ・ 営業資産残高の増加や資産利回りの向上により、差引利益は全ての分野で増加
- ・ 信託受益権への投資や設備投資分野が牽引し、契約実行高も大幅に増加

単位：億円

	差引利益			契約実行高		
	2024/3期	2025/3期		2024/3期	2025/3期	
	4Q累計実績	4Q累計実績	伸率	4Q累計実績	4Q累計実績	伸率
オフィス分野	151	160	6.1%	1,140	1,236	8.4%
設備投資分野	96	106	10.3%	948	1,180	24.5%
医療・ヘルスケア分野	58	59	1.3%	301	323	7.2%
不動産分野	70	87	23.9%	1,113	1,430	28.5%
環境分野	38	38	0.5%	425	338	△20.5%
as a Service分野	26	31	18.5%	118	160	35.3%
BPO分野	34	38	14.2%	—	—	—
合計	475	522	9.9%	4,047	4,669	15.4%

※契約実行高：リースは賃貸用資産の取得金額、割賦は割賦債権から割賦未実現利益を控除した金額

オフィス分野

- 資産の増加や資産利回り向上により、差引利益が増加
- パソコンを中心に情報関連機器の契約実行高が増加

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高※	1,146	1,150	0.3%
売上原価※	995	989	△0.6%
差引利益	151	160	6.1%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	1,140	1,236	8.4%
オフィス分野 合計	1,140	1,236	8.4%

設備投資分野

- 資産利回りの向上等により、差引利益が増加
- 複数の大口案件に加え、重点分野である建機・車両の伸長等により契約実行高が増加

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	963	984	2.1%
売上原価	867	877	1.2%
差引利益	96	106	10.3%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	946	1,168	23.4%
融資	1	12	539.3%
設備投資分野 合計	948	1,180	24.5%

※2024/3期2Q決算まで設備投資分野・環境分野・不動産分野の売上高・売上原価として計上していた一部取引を、2024/3期3Q決算以降は顧客の属性によりオフィス分野の売上高・売上原価として計上



医療・ヘルスケア／不動産分野 実績

医療・ヘルスケア分野

- 資産利回りの向上が継続し、差引利益が増加
- 開業医向け融資が伸長し、契約実行高が増加

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	275	276	0.3%
売上原価	216	217	0.1%
差引利益	58	59	1.3%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	251	264	5.2%
融資	50	58	17.1%
医療・ヘルスケア分野 合計	301	323	7.2%

不動産分野

- 信託受益権や融資を中心に差引利益が増加
- 物流施設向けの信託受益権への投資が大きく伸長し、契約実行高が増加

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	154	179	15.9%
売上原価	84	91	9.1%
差引利益	70	87	23.9%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	13	17	32.5%
融資	786	664	△15.5%
住宅賃貸	60	7	△87.1%
不動産関連	252	741	193.2%
不動産分野 合計	1,113	1,430	28.5%



環境分野

- 減収となるも、利益率の向上により差引利益は微増
- 前年の大口案件の反動により、契約実行高は減少

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	297	282	△5.0%
売上原価	259	244	△5.8%
差引利益	38	38	0.5%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	278	195	△29.9%
融資	21	48	123.9%
太陽光発電	115	79	△31.5%
その他	10	15	56.1%
環境分野 合計	425	338	△20.5%

as a Service分野

- 利益率の向上により差引利益が増加
- Windows10のサポート終了特需に対して、パートナー企業との連携強化によりパソコンを中心に契約実行高が増加

業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	175	172	△1.6%
売上原価	148	140	△5.2%
差引利益	26	31	18.5%

契約実行高

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
リース・割賦	118	160	35.3%
as a Service分野 合計	118	160	35.3%



BPO分野／リース・割賦 契約実行高 実績

BPO分野

- ・ 集金代行・介護ファクタリングともに、既存顧客との取引が堅調に推移し、新規顧客との取引も順調に獲得
- ・ 取扱件数及び取扱高が増加し、業績伸長

■ 業績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
売上高	70	76	9.4%
売上原価	36	38	4.9%
差引利益	34	38	14.2%

■ 営業実績

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期	
		4Q累計実績	伸率
集金代行 取扱件数（万件）	3,039	3,266	7.5%
介護ファクタリング取扱高	894	936	4.7%

リース・割賦 契約実行高（機種別）

- ・ パソコンの入替需要や大口案件の獲得により、情報関連機器が伸長
- ・ 産業工作機械は、前年の環境分野の大口案件の反動で減少

単位：億円

	2024/3期 4Q累計実績	2025/3期		リース事業協会 （4月-3月累計） リース設備投資額伸率
		4Q累計実績	伸率	
事務用・情報関連機器	1,326	1,549	16.8%	14.0%
医療機器	289	308	6.9%	0.3%
産業工作機械	287	261	△9.2%	△7.8%
商業・サービス業用機器	122	125	2.0%	12.6%
車両・輸送用機器	222	261	17.4%	13.1%
その他	499	536	7.3%	1.2%
リース・割賦 契約実行高 合計	2,748	3,041	10.7%	8.9%

3. 2026年3月期 連結業績予想

- 増収を見込むも、資金原価と販管費の増加により売上総利益以下の各利益は減益
- 1株当たり年間配当金は5円増配の185円。上場以来31期連続増配※を見込む

単位：億円

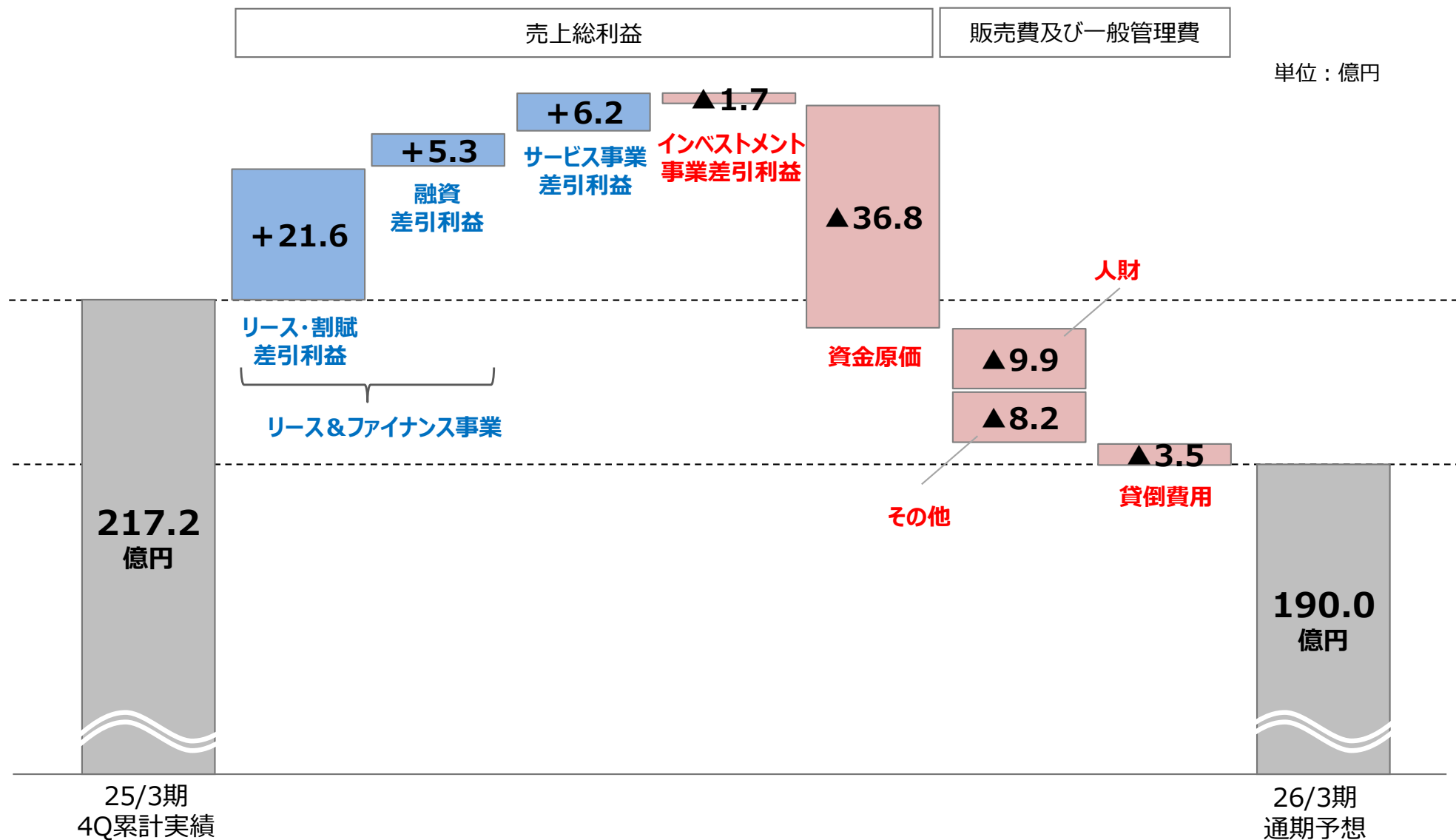
	2025/3期		2026/3期	
	通期実績	伸率	通期予想	伸率
売上高	3,121	1.2%	3,200	2.5%
売上総利益	485	6.5%	480	△1.1%
販売費及び一般管理費	268	9.2%	290	8.1%
営業利益	217	3.4%	190	△12.6%
経常利益	220	2.3%	192	△12.8%
当期純利益	156	38.8%	132	△15.7%
		前年差		前年差
1株当たり配当金（円）	180.00	30.00	185.00	5.00
1株当たり純利益（円）	507.99	142.10	428.23	△79.76
配当性向	35.4%	△5.6%	43.2%	7.8%
ROA（総資産当期純利益率）	1.19%	0.29%	0.93%	△0.26%
ROE（自己資本利益率）	6.9%	1.7%	5.6%	△1.3%

※連続増配は、2000年3月期の株式分割による実質増配を含む



営業利益の前年比増減要因 予想

- 資産残高の増加や資産利回りの向上により、差引利益は増加
- 市場金利の上昇により資金原価は大幅増加、人財投資を中心として販売費及び一般管理費も増加





営業資産の内訳 予想

- 営業資産は782億円の増加を予想、リース&ファイナンス事業は契約実行高の拡大を継続
- インベストメント事業は、不動産価格の高止まりを鑑み投資抑制、資産の増加が鈍化

単位：億円

	2025/3期		2026/3期	
	期末	前期末増減	期末予想	前期末増減
ファイナンス・リース	5,990	241	6,130	139
オペレーティング・リース	384	38	400	15
リース計	6,374	280	6,530	155
割賦	1,577	69	1,610	32
リース・割賦 合計	7,951	349	8,140	188
融資	2,765	163	3,200	434
リース&ファイナンス事業	10,716	512	11,340	623
インベストメント事業	1,500	554	1,660	159
営業資産 合計	12,217	1,067	13,000	782

4. 2023年度～2025年度 中期経営計画の進捗

中期経営計画の戦略は参考資料をご参照ください



中期経営計画 進捗（財務目標）

- ・ 契約実行高が順調に拡大し、差引利益及び営業資産残高は中計目標を達成見込み
- ・ 一方、想定以上に早期に金利が上昇したことで資金原価が膨らみ、各利益は中計目標未達を予想

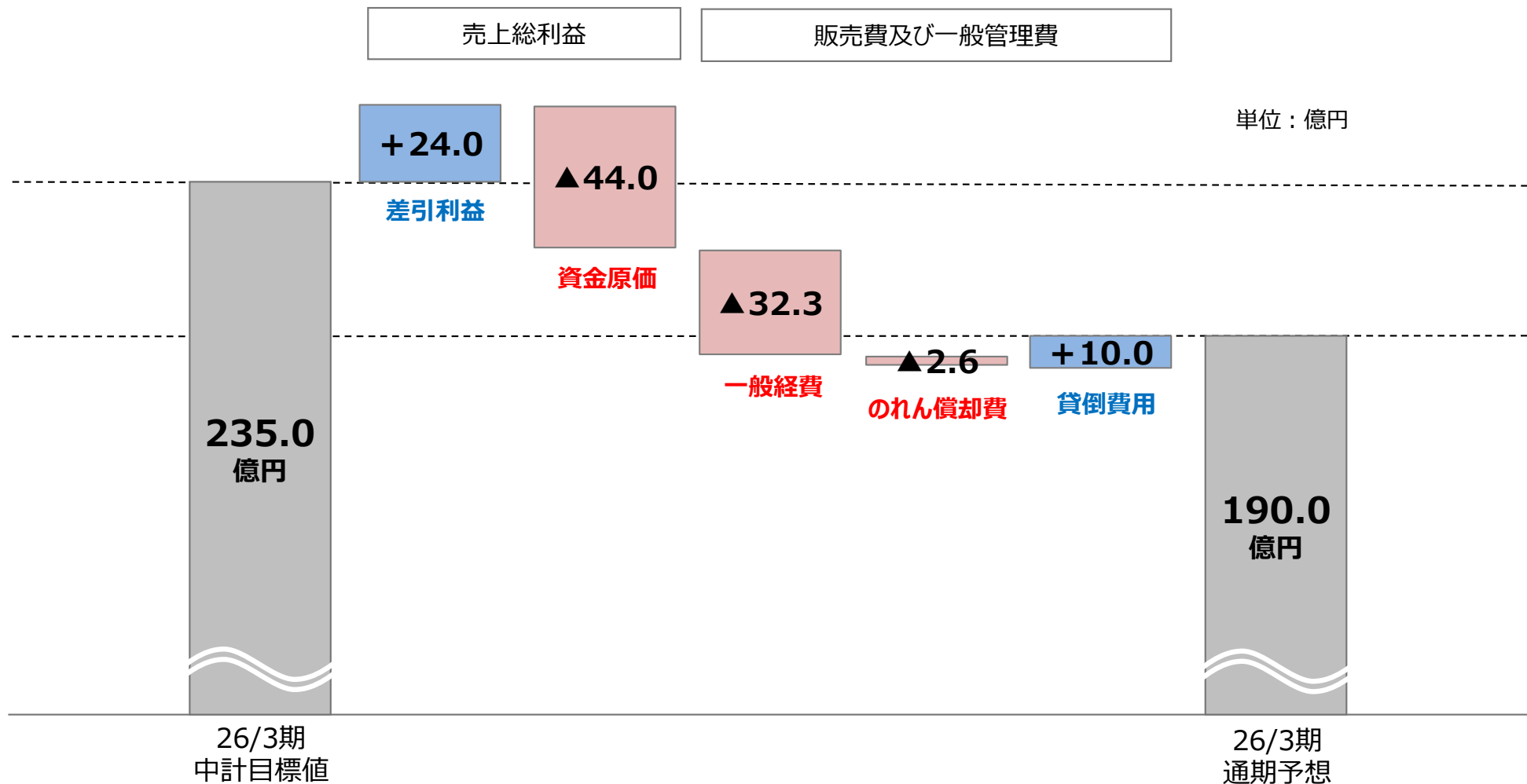
単位：億円

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期		
	実績	実績	実績	予想	中計目標値	中計目標値 差異
差引利益	447	475	522	554	530	24
資金原価	14	20	37	74	30	44
売上総利益	432	455	485	480	500	△20
販売費及び一般管理費	220	245	268	290	265	25
営業利益	212	210	217	190	235	△45
当期純利益	148	112	156	132	160	△28
ROA	1.23%	0.91%	1.19%	0.93%	1.1%以上	△0.17%
ROE	7.2%	5.2%	6.9%	5.6%	7%以上	△1.4%
営業資産残高	10,902	11,149	12,217	13,000	12,400	600
配当性向	30.1%	41.0%	35.4%	43.2%	40%以上	3.2%



中計営業利益目標値と26/3期予想の差異要因

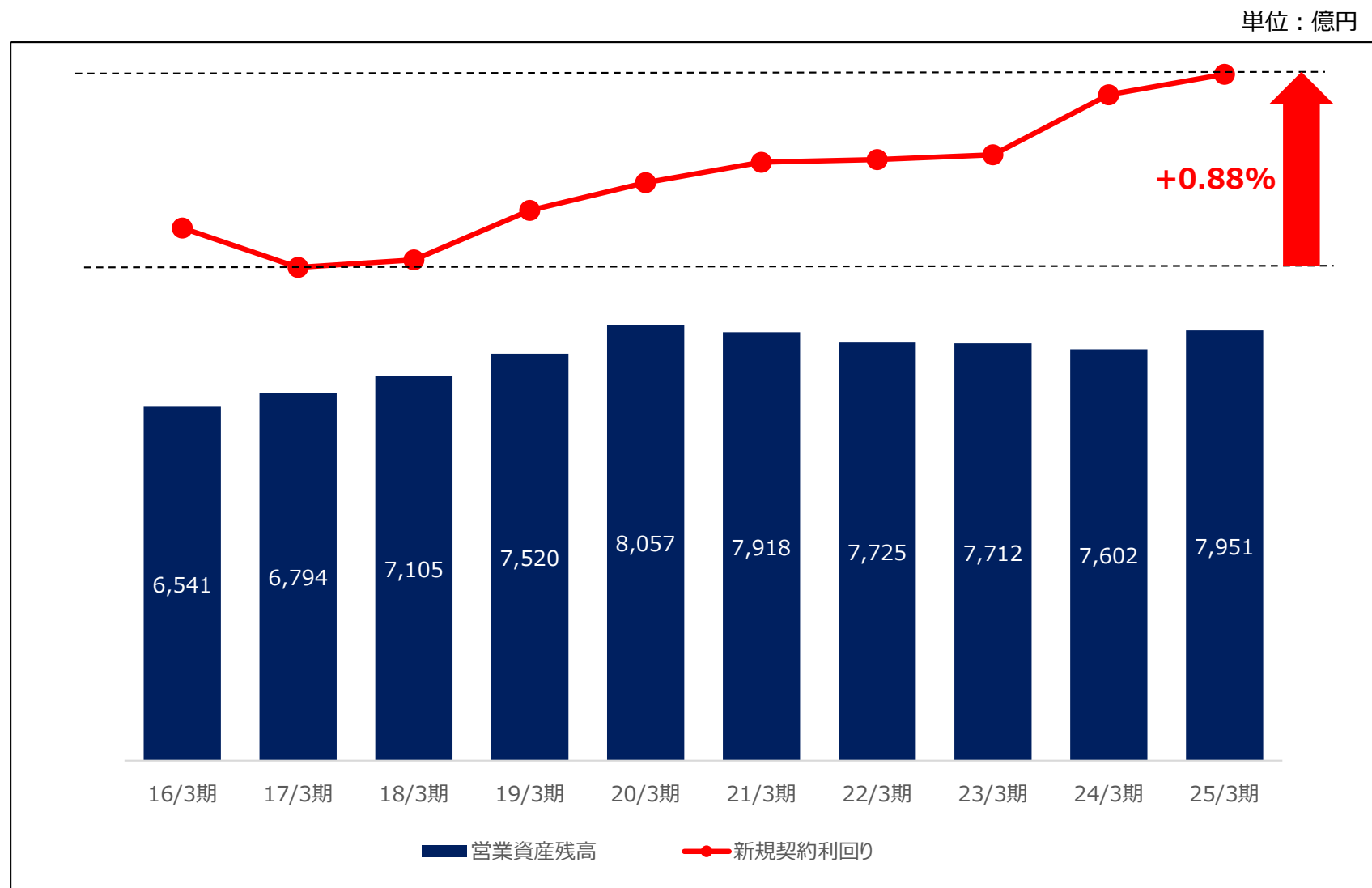
- 想定以上の営業資産の積み上げと新規契約利回りの向上により、差引利益は目標を超過
- 資金原価や事業基盤強化のための投資等による一般経費の増加、のれん償却費の発生により営業利益は目標未達





リース・割賦新規契約利回り、資産残高

- 低金利下から新規契約利回りの向上を継続し、17/3期対比で0.88%上昇
- 25/3期は契約実行高が大幅に増加、コロナ禍以降減少していた資産残高が増加に反転





中期経営計画 進捗（非財務目標）

- 4つのマテリアリティの実現に向け、社会へのインパクトが強い項目を非財務目標として設定
- 非財務目標達成に向けた取り組みと事業戦略を結びつけ、財務目標の達成を目指していく

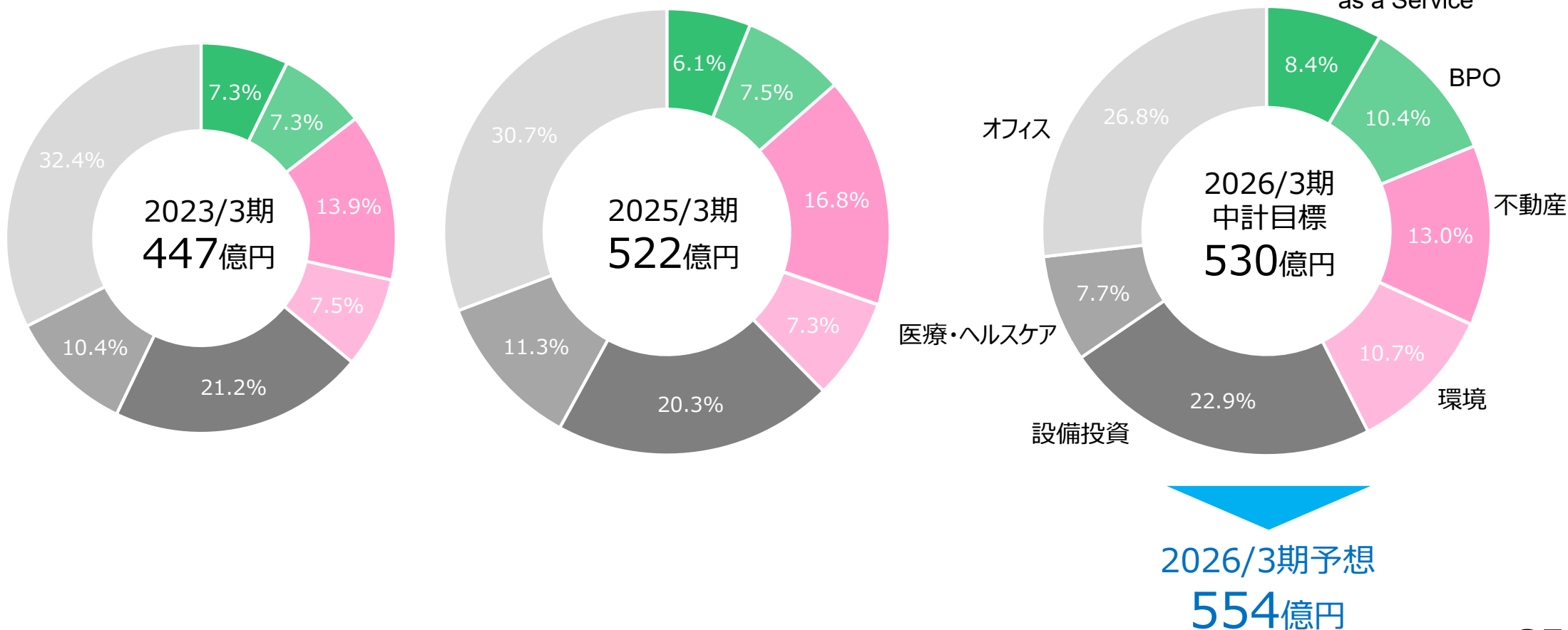
		2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	
マテリアリティ	項目	実績	実績	実績	中期経営計画 目標値	
非財務目標	クリーンな地球環境をつくる	環境分野への 累計資金投下額	2,720億円※	3,138億円	3,477億円	4,000億円
	豊かな暮らしをつくる	集金代行 稼働サービス数	16,682 サービス	17,861 サービス	18,987 サービス	20,000 サービス
	持続可能な経済の 好循環をつくる	重点3分野契約実行高 (建機・車両・農業)	320億円	303億円	377億円	450億円
	ハピネスな会社、 そして社会をつくる	エンゲージメントスコア (年間平均)	72点	71点	71点	75点
		女性管理職比率	23.0%	21.8%	23.8%	25%
	一人当たり教育費	39,730円	40,016円	58,176円	55,000円	

※環境関連融資を精査し、2,703億円から2,720億円に遡及修正



- 既存事業を強化、及び新規事業を拡大することで、利益成長を実現し多様化した事業ポートフォリオを構築する

差引利益構成比の推移

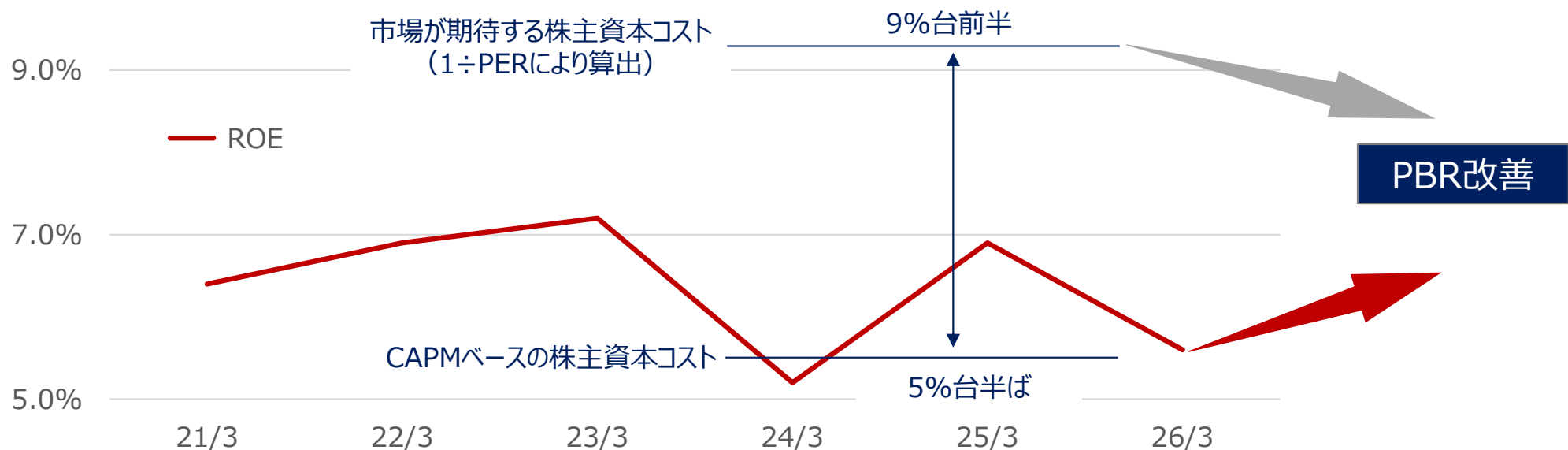




企業価値の向上に向けた現状認識

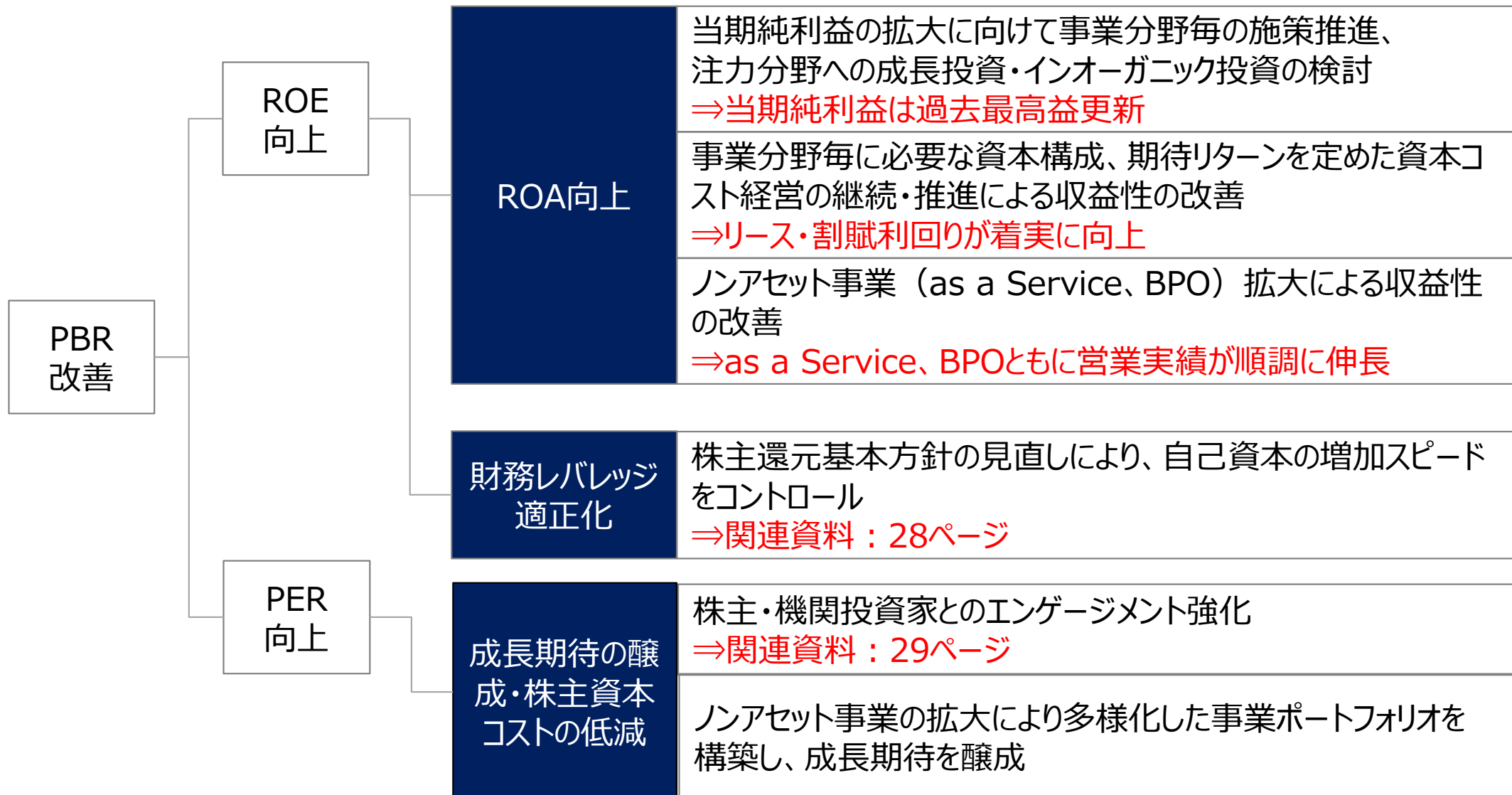
- 市場が期待する株主資本コスト以下の水準でROEが推移し、PBRは1倍割れが続く
- ROE向上と株主資本コストの低減により、PBRの改善を図る

	21/3期 実績	22/3期 実績	23/3期 実績	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 予想
営業利益	174億円	192億円	212億円	210億円	217億円	190億円
当期純利益	120億円	134億円	148億円	112億円	156億円	132億円
ROA	1.04%	1.15%	1.23%	0.91%	1.19%	0.93%
ROE	6.4%	6.9%	7.2%	5.2%	6.9%	5.6%
PBR	0.56倍	0.51倍	0.55倍	0.74倍	0.72倍	-





企業価値の向上に向けた取り組み状況





株主還元方針

■ 資本活用の方針

成長投資

- リスクアセットの積み上げ
- 中長期的にROE向上に資するインオーガニック投資
- 事業基盤強化に向けたIT投資による無形固定資産の積み上げ

財務の健全性確保

- リスクアセットに対する必要資本量の配賦
- 有利な資金調達を実現する格付の取得・維持

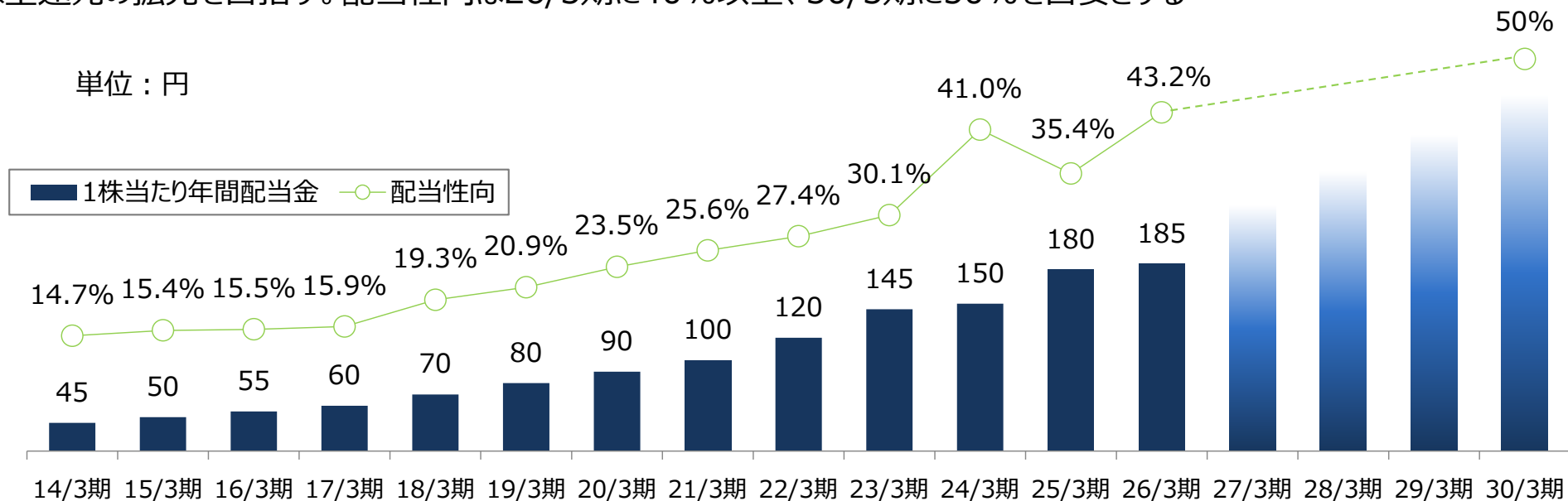
株主還元

- 累進性を意識し配当を中心とした株主還元

■ 株主還元基本方針

配当の累進性と業界トップクラスの還元水準を意識し、持続的な成長と適正な資本構成及び財務体質の強化を図り、株主還元の拡充を目指す。配当性向は26/3期に40%以上、30/3期に50%を目安とする

単位：円





ステークホルダーエンゲージメントの強化

能動的な対話と情報開示の充実

- 投資家とのミーティングを通じた能動的な活動により、当社株式の提案活動を実施
機関投資家からのより活発なコンタクトを希望※
※コンタクト先 ir@r-lease.co.jp
- 英文開示の拡充、スポンサードリサーチ※の発行により、投資家との情報非対称性の解消に努める
※URL <https://sharedresearch.jp/ja/companies/8566>

投資家意見の社内還元と株価を意識した経営

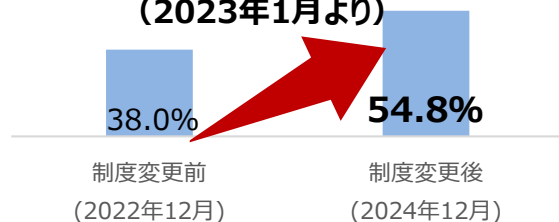
- 取締役会へのIR報告を行い、中計の進捗及び次期中計策定に向けたディスカッションや特別セッションを実施
- 執行役員会議へのIR報告により、各事業部門責任者へ投資家意見をフィードバック

社内IRの強化

- 企業価値向上のインセンティブと株価を意識した業務執行を目的に、社員持株会を拡充

社員持株会加入率

***奨励金を5%→20%に引き上げ
(2023年1月より)**



- 社員の視座向上に向け、経営層とのタウンホールミーティング“みらくる座”の実施

みらくる座の様子



ミーティングテーマの一例

- 経営理念
- 全社方針
- サステナビリティ経営
- 行動規範

■ 新たなビジネスの創出と事業を通じた社会貢献により、持続可能な循環社会の実現を目指す

クリーンな地球環境をつくる

- CO₂排出量をスコープ1,2はネットゼロに、スコープ3は2015年度比で20%削減(2030年目標)
- 再生可能エネルギー発電量196,764MWh (2024年度実績)

豊かな暮らしをつくる

- 「豊かな未来積立金」制度により34百万円の寄付 (2024年度実績)
- ITを活用した効率化とサービス品質向上に向け、VRリハビリ機器や排泄センサーの実証実験実施中

持続可能な経済の好循環をつくる

- 大型車ディーラーとの提携など重点3分野（車両・建機・農業）の取り組みを通じて中小企業の設備投資のハードルを下げる
- as a Service商品の提供により企業成長に貢献 契約実行高が前期比35.3%増加

ハピネスな会社、そして社会をつくる

- 様々な施策により社員の健康意識を高め、組織として健康を維持・増進する文化を醸成
- 「豊かな未来」実現に向けた社内提案制度「MiraiCreation」の運用

外部評価



FTSE Blossom
Japan

FTSE Blossom
Japan Indexに選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom Japan
Sector Relative Index
構成銘柄に選定



CDP気候変動レポート
2024「A」評価獲得



S&P/JPXカーボンエフィ
シエント指数に選定



Morningstar日本株式
ジェンダー・ダイバーシティ・
ティルト指数に選定



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門
2025に認定

5. 參考資料



2024年度の主なリリース

2024 年度	1Q	不動産	一人暮らしのアクティブシニア向け賃貸住宅の提供について
		不動産	開発型ファンドを組成、JR東日本の社宅を賃貸レジデンスへとリノベーション
	2Q	全社	“タイアップ型”SDGs 参加型リースで育て上げネットに寄付実施
		全社	「FTSE Blossom Japan Index」および「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄への継続選定
	3Q	環境	「オペレーションアシスト」の受託について
		全社	株式会社シェアードリサーチによるアナリストレポート公開のお知らせ
		全社	「PRIDE 指標 2024」において最高位の「ゴールド」を初受賞
		環境	エーザイ株式会社に対し非化石証書代理購入サービスを提供
		全社	東京ヴェルディフлагフットボールチームとユニフォームパートナー契約を締結
		全社	「令和6年度 東京都スポーツ推進企業」に認定



2024年度の主なリリース

2024 年度	4Q	不動産	単身シニア向け賃貸住宅に身元保証会社の利用でも入居が可能に
		全社	東京ヴェルディとのコーポレートパートナー契約締結のお知らせ
		環境	自社太陽光発電所のアルミ化推進による銅線盗難予防措置
		不動産	単身シニア向け賃貸住宅の新ブランド「アンジュプレイス」が誕生
		全社	CDP 気候変動レポートにおいて最高評価「A リスト企業」に選定
		全社	スポーツ庁の「スポーツエールカンパニー2025」に認定
		全社	BtoB におけるコールセンター業務の DX 化を実現
		不動産	単身シニア向け賃貸住宅「アンジュプレイス」がSOMPOケアの「いきガ イド」とサービス連携を開始
		全社	「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に 9 年連続認定
		全社	令和 6 年度「がん対策推進優良企業」として表彰されました



連結損益計算書

単位：億円

	2024/3期		2025/3期		2026/3期	
	4Q累計実績	伸率	4Q累計実績	伸率	通期予想	伸率
売上高	3,083	3.2%	3,121	1.2%	3,200	2.5%
売上原価	2,627	2.8%	2,636	0.3%	2,720	3.2%
資金原価	20	33.6%	37	85.4%	74	99.4%
売上総利益	455	5.3%	485	6.5%	480	△1.1%
販売費及び一般管理費	245	11.4%	268	9.2%	290	8.1%
人件費	122	12.2%	129	5.8%	139	7.7%
貸倒引当金繰入額	13	8.6%	11	△17.2%	15	31.2%
営業利益	210	△1.0%	217	3.4%	190	△12.6%
経常利益	215	△0.1%	220	2.3%	192	△12.8%
当期純利益	112	△24.2%	156	38.8%	132	△15.7%

■ 売上高及び損益

単位：億円

	2024/3期		2025/3期	
	4Q累計実績	伸率	4Q累計実績	伸率
売上高	3,083	3.2%	3,121	1.2%
リース&ファイナンス事業	2,935	2.5%	2,928	△0.2%
サービス事業	87	22.0%	93	6.7%
インベストメント事業	60	15.5%	99	64.9%
セグメント利益	234	△0.1%	246	5.1%
リース&ファイナンス事業	209	△0.5%	212	1.6%
サービス事業	13	2.3%	12	△6.2%
インベストメント事業	11	5.0%	20	84.3%

■ 営業資産

単位：億円

	2024/3期		2025/3期	
	期末	増減	期末	前期末増減
営業資産	11,149	247	12,217	1,067
リース&ファイナンス事業	10,203	△45	10,716	512
インベストメント事業	945	292	1,500	554



リコーリースの目指す姿

経営理念

私達らしい
金融・サービスで
豊かな未来への
架け橋となります。

2023～2025年度 中期経営計画における戦略立案の軸

社会課題

- ▶ 気候変動対応
- ▶ 脱炭素社会の実現
- ▶ 労働人口減少
- ▶ 社会インフラの老朽化
- ▶ デジタル化
- ▶ 地域格差 等

事業を通じた
社会課題の解決

4つのマテリアリティを通じた貢献

中長期ビジョン
『循環創造企業へ』

企業の成長機会への貢献

リコーリースの
DNA

ベンダーリースを
軸とした
トランザクションデータ
の活用



中期経営計画 戦略全体像

経営理念

私達らしい金融・サービスで豊かな未来への架け橋となります。

中長期ビジョン

『循環創造企業へ』

事業成長戦略

新たなビジネスモデル
への挑戦

事業&サービス付加
による多様化

効率を伴う
更なる拡大

as a
Service

BPO

不動産

環境

介護

オフィス

医療・
ヘルスケア

設備投資

組織能力
強化戦略

事業成長につながる
チャレンジの促進
及び組織の活性化

社会変化に合わせた
柔軟なシステム
及び業務体制の構築

関係会社を含めた
ガバナンス強化

戦略立案
における軸

企業の成長機会



4つのマテリアリティ

リコーリースのDNA

ベンダーリースを軸としたトランザクションデータの活用

社会課題

事業を通じた社会課題の解決



収益性が高く、より事業機会の大きい分野へリソースを投入し、次の柱の構築を進める

戦略	事業分野	施策
新たな ビジネスモデル への挑戦	 as a Service	▶ DaaS（Device as a Service）による、大手顧客への価値提供 ▶ リース商材をはじめとした、as a Service化に向けたアライアンス強化
	 BPO	▶ 集金代行サービスの更なる取り扱い拡大と、決済周辺サービス拡充 ▶ 海外からのビジネス渡航需要を捉えたサービス提供の拡大
事業&サービス 付加による 多様化	 不動産	▶ 多様な資産積み上げと、資産価値を向上するサービスの開発
	 環境	▶ 発電所のアセットマネジメントサービスを含めた、事業の多様化 ▶ 他電源へのチャレンジ、及び蓄電池分野の研究
	 介護	▶ Welfareすずらんの事業運営と、業界ノウハウの蓄積

当社の成長を支える最重要基盤

効率を伴う更なる拡大

 オフィス

 医療・ヘルスケア

 設備投資



事業成長を支える組織能力、ガバナンスの強化を図る

戦 略	施 策
事業成長につながる チャレンジの促進 及び組織の活性化	▶ 挑戦する人財の育成、及び挑戦する風土の醸成に資する制度の強化 ▶ 変化する外部環境に柔軟に対応する制度の構築と、多様な人財が活躍できる組織づくり
社会変化に合わせた 柔軟なシステム 及び業務体制の構築	▶ リース関連業務システムの順次切り替えによる、自動化及び効率性の向上 ▶ インフラの刷新とサイバーセキュリティの強化 ▶ IT管理・統制の向上によるITガバナンス強化
関係会社を含めた ガバナンス強化	▶ 外部とのコミュニケーションを通じた、サステナビリティ経営の進化 ▶ グループ各社との連携強化と、戦略統合を通じた事業拡大

本資料の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。

＜お問い合わせ先＞

リコーリース株式会社

経営企画部

Tel : 050-1702-4203
Email : ir@r-lease.co.jp
URL : <https://www.r-lease.co.jp>